

第21回ジオパーク下仁田協議会（顛末）

日時 令和3年10月15日（金）午後1時30分～
場所 下仁田町役場201会議室

1 開 会

2 委員の紹介

3 会長挨拶

4 報 告

(1) 下仁田ジオパークブランド認定（新規・更新）について

報告資料1のとおり、新規のジオパークブランド商品3点（1ページの20番から22番）の認定及び、19点（1ページの1番から19番）のジオパークブランド商品の再認定（更新）を産業観光部会で議論し認定しました。

質問

- ・しもにたかつ井のジオブランド登録の理由について聞きたいと思います。

回答

- ・下仁田はかつて、鉱山や養蚕などの産業で栄えた歴史背景をもち、その中で外食需要が高まり飲食店が短時間で提供できるので下仁田かつ井が開発され、古くからこの地域で愛されていました。しもにたカツ井は、地域の自然を活かした産業がこの地域の食文化にもかかわるということからブランド認定をしました。また、申請団体の下仁田かつ井の会さんには各店舗にかつ井のルーツを紹介する広告を置いてもらう事にしました。

(2) 下仁田ジオパークガイド養成及び同ガイドの認定について

報告資料2のとおり、ジオパークガイド養成要綱とガイド認定要項を作成し、この要綱を基に、報告資料2の3ページのとおり、以前からガイド活動をしている4名のガイド認定更新と新規ガイド3名の認定を行いました。

(3) 下仁田ジオパーク プログレスレポートについて

報告資料3のとおり、下仁田ジオパークの4年間の活動報告を2021年9月15日に日本ジオパーク委員会に提出しました。11月に行われる再審査に伴う現地調査はこのレポートを基に、下仁田の4年間の活動について調査されます。

5 協議事項

(1) 下仁田ジオパーク 再認定審査日程（案）について

2021年11月5日～8日に行われる再認定審査現地調査について、協議資料1のとおり事務局案を提案し、承認されました。

質問

- ・以前の審査になかった自己採点表のチェックとはどういう事ですか。

回答

- ・2015年ユネスコの正式プログラムになってから、審査のスタイルをユネスコ世界ジオパークの審査と統一するようにされてきており、その中で特にこの4年間で自己評価表を現地調査中に確認するという項目が加わりました。自己評価表については、評価表の項目ごとに自分たちの活動を振り返りながら、予め点数をつけ、調査員とともにその項目に沿って活動の再確認を行うものです。今回の調査では二日目の14時30分からと3日目の残り時間で自己評価表を行うように長めにとっています。

(2) 下仁田ジオパーク テーマ・ストーリー（案）について

下仁田ジオパークのテーマ・ストーリーについて、学術部会での先生やガイド部会でのガイドなどの意見を踏まえて、下仁田の各サイトからどんなストーリーを伝えることができるかを協議資料2のような3つの柱を提案しました。また、資料2ページには、3つのストーリーを踏まえてガイドから提案された下仁田を言い表すキャッチフレーズ（案）についても提案し、下記の意見等をいただきました。

意見

- ・提案されたキャッチフレーズはねぎとこんにやくの恵みとあるが、元々こんにやくブランドは粉の集散加工地として有名になっていったが、こんにやくの町というには、現在こんにやく畑が少なく、こんにやくを下仁田で表すキャッチフレーズに入れるのはどうしてですか。

回答

- ・このキャッチフレーズはガイドさんから提案されたもので地質の専門用語を使わないで、下仁田を言い表す言葉はないかという観点で提案されました。
ねぎとこんにやくは外の人から見ても下仁田をイメージできるワードで、これを町の魅力につなげたいというところから、出てきた提案であります。
こんにやくの栽培地はテーマ1（根なし山をつくった海から陸への大変動）に当てはまり、テーマ3（東西の文化とモノの交差点）の盛んな交流の中でこんにやく精粉の集散地としての下仁田が記載されており、テーマにも合致していると思います。

意見

- ・来町者には、何がこんにやくの町なのと聞かれる事があります。こんにやくを食べられる店が多くあるわけではないと思います。
- ・仕事で様々なところに営業に行っても、ねぎとこんにやくというブランドは、下仁田というイメージが定着しています。ねぎとこんにやくはキャッチフレーズに入れた方がよいと思います。
- ・キャッチフレーズは何のためのものかという原点に立ち返ると、下仁田の宣伝をするものなので、キャッチフレーズには下仁田というワードを入れてはどうですか。

回答

- ・キャッチフレーズに関しては、ジオパークパンフレットに使う場合、「下仁田」というワードを入れるか検討する事は非常に良いと思います。
他の地域のパンフレットは、地域名を入れずに自分の地域の事を語っているキャッチフレーズが多いです。皆様の意見や他の地域のパンフレットを参考に考えて見たいと思います。
- ・キャッチフレーズに関しては、協議会として「ねぎとこんにやく」を入れる方向で話を進めます。そして、下仁田ジオパーク再認定審査の時に調査員と意見交換を踏まえながら、2021年度発行予定の下仁田ジオパークパンフレット発行まで再度協議して決定します。
また、下仁田ジオパークの再認定審査では、調査員に今日までの議論の経過を踏まえて途中経過のキャッチフレーズ等を示し、ご意見をいただきます。

(3) 下仁田ジオパーク アクションプラン（2022～2026）（案）について

協議会専門部会でこれまで協議して作成したアクションプラン（案）を、協議資料3のとおり提案しました。アクションプラン（案）は、2022年度からこの計画に基づいて活動をすすめるものです。

今回の協議会委員等からの意見を踏まえ、さらに下仁田ジオパーク再認定審査（11/5・6・7）の中で、調査員と意見交換をした上で、次回ジオパーク下仁田協議会で最終決定とします。

6 その他

次回のジオパーク下仁田協議会の開催は、2022年1月下旬頃に今回の下仁田ジオパーク再審査結果が発表される見込みです。その結果報告と再認定審査の結果を踏まえたアクションプラン（2022～2026）、下仁田ジオパークのテーマ・ストーリーなどの報告・協議・決定などを2022年2月～3月に開催する予定です。

7 閉 会